

会議結果報告書

1 会議名	平成 30 年度第 1 回環境指導員地区会議（鶴嶺西地区）
2 日時	平成 30 年 6 月 1 日（金）14：00～15：45
3 場所	鶴嶺西コミュニティセンター 会議室 1・2
4 出席者	<p>（資源循環課）原田副主査、水本主事</p> <p>（環境事業センター）林所長補佐、鈴木主事、原田技能労務統括主査、山口技能労務統括主査、田中技能労務統括主査</p> <p>（鶴嶺西地区）参加人数：17 人</p>
5 内容	<p>本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>●戸別収集について、藤沢市と大和市は赤字だと聞いたが、実際はどうか。また、茅ヶ崎が戸別収集を導入した場合、有料化の負担額がさらに増えることはあるのか</p> <p>→赤字というのは、有料化で得られる歳入より戸別収集の経費の方が上回るという意味である。自治体の規模にもよるが、戸別収集は車両や人員の増加に伴い経費がかかる。藤沢市では 5 億円程度、大和市では 1 億 5,000 万円程度。茅ヶ崎市は大和市と同規模の自治体なので、本市でも同程度と見込まれるが、現在戸別収集について調査をしており、検証した上で正確な数字をお示しする予定である。</p> <p>●藤沢市の有料化による収支状況が 4 億 5 千万円に対し、戸別収集で 5 億円程度経費がかかると聞いたが、持ち出しは差し引きの 5 千万円なのか、それとも純粋に 5 億円なのか</p> <p>→手元の資料によると戸別収集の経費が 9 億 8 千万円なので、持ち出しが 5 億円程度となる。</p> <p>●茅ヶ崎市としては、有料化を実施する方向なのか？</p> <p>→3つの課題を解決する方法として、有料化は有効な方策であると考えている。市民の皆様の負担軽減、利便性を含めて、有料化と戸別収集について検討していきたいと考えている。</p> <p>●集積場所に出すごみ袋をスーパーで購入しているが、それは有料化の一部として考えられるのではないか。集積場所をみても、スーパーで購入したごみ袋で出している人が多い。</p> <p>→現在は、袋を購入される方と、買い物の際にもらった袋をごみ袋として使用している方がいる。有料化になった場合は、一般的には、有料で袋を購入していただくようになる。</p> <p>●剪定枝の資源化については、経費の方がはるかにかかる。一般市民は資源化という</p>

と利益が出ると考えてしまうと思うので、誤解のない名称を考えてもらいたい。  
→リサイクルには費用がかかるということを理解していただけるような説明をさせていただく。

●剪定枝は、堆肥化するのか。

→細かいものは堆肥、大きいものはチップ化し燃料にするというのが全国的な活用方法である。

●大和市、藤沢市での有料化について、ごみ袋の値段はいくらか。

→藤沢市、鎌倉市、逗子市が2円/L 大和市が1.6円/L。主な袋のサイズは、5L、10L、20L、40Lの4種類である。

●40Lだと1枚80円、1週間で2回出すと160円かかるということか。

→そのとおりである。

●現在、燃やせるごみ、燃やせないごみ、プラスチック製容器包装類を袋で出しているが、全て有料袋で出すことになるのか。

→自治体によっても違うが、近隣市では燃やせるごみ、燃やせないごみを有料袋の対象として指定している。プラスチック製容器包装類は無料となっている。ごみと資源物で有料化の対象を分けることで、適正な分別、ごみの減量が進むような仕組みとしている。

●茅ヶ崎市でもそのような仕組みを考えているのか。

→そういった仕組みを導入したほうが、ごみと資源化を線引きできると考えている。

●有料化は実施したほうがいいと思う。今後必要になる施設の整備などを考えると、有料化すべきだ。

●ネットボックスを自治会として斡旋しているが、戸別収集の可能性があれば、斡旋しないほうが良いのか。

→有料化・戸別収集の実施については現在検討中である。実施することになっても、それまでの間、カラス対策のためにネットボックスにどの程度投資されるかということは自治会または地域の判断となる。藤沢市では、戸別収集実施後も資源物は集積場所に出しているという事例もあるため、集積場所が全くなくなるわけではない。

以上